

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人 日岳会		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村報告日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成27年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が安心して過ごせるためにしっかりと訴えに耳を傾けています。また安全に生活出来るように生活リハビリやリハビリ体操を行い、身体機能の維持に努めています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>のどかな田園と市街地ショッピングモールが隣り合わせに挟まれたホームは、外観は和風作りで、内部は廊下、居室、食堂、リビング等がバリアフリーで余裕のある建物である。設立当初から地域との関係を重要視し、地域へ積極的に出かけ交流を図り、ホームを理解、協力体制を構築すべく働かして、徐々に成果を表している。ひとり一人の入居者に寄り添い、思いや意向を大切にし思いのままに生活してもらうように支援している。今後も身体機能低下の防止や、家族や地域との信頼関係構築のための取り組みの継続を期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同勉強会などを行うときにも理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念と法人の理念を共有空間であるリビングに掲示し、職員は理念を念頭に置いて業務に就いている。家族会にて家族や入居者には説明している。	理念についてホームに関わるすべての人(入居者・家族・職員・地域)と共有出来るような取り組みが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総会や区役、餅つき、避難訓練などに参加して交流している	地域の総会や区役、地域行事である餅つきや地区総出の避難訓練に入居者と供に積極的に参加している。各月発行のホーム便りを回覧してもらい、ホーム生活を周知してもらう取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を作成して南部田地区の回覧板に置いて地域の人々に知ってもらっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者に会議時報告して意見を聞きサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、メンバーは行政職員、地域包括センター職員、区長、民生委員、老人会長、家族代表、ホーム職員で構成されている。ホーム職員の紹介、利用者の状況報告、ホームイベントや活動状況の報告、出席者からの質疑応答等が行われている。区長の参加により、ホーム生活便りを回覧板でまわせるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回は支所を訪れ連絡を取りながら協力関係を築いている	行政職員は運営推進会議に出席しており、ホームの入居者の状態や様子を把握している。何か疑問点や分からないことがある場合に電話で連絡したり直接訪問し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束をしない方針を持ちケアに取り組んでいる	法人で身体拘束に関しての研修を開催しており、出来るだけ参加している。月1回勉強会をしており、テーマにあげ、学んでおり、拘束のないケアに取り組んでいる。月1回の勉強会は職員がテーマを決め資料を用意し中心となり開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同虐待をしないように心がけて介助を行っています		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを開催して職員一同に理解してもらい支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に十分説明し理解してもらっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の意見を取り入れそのたびに仕事反映させている	家族の訪問時に入居者の健康状態やホームでの様子などの報告をし、家族の意見を聞いている。年2回家族会を開催しており、意見を出してもらう機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などを開いて職員の意見を聞き仕事に反映させている	毎月の会議や勉強会の機会に意見を聞いている。毎日の業務の中で意見や要望を聞き、その場で解決できる場合もあり、出来ない場合は全職員で話し合ったり、法人へ投げかけたりし、運営へ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心を持って働ける環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりにあわせた研修や資格取得を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修参加を設け交流する機会を作っている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごせるように話を聞きながら介助を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、情報などに耳を傾けながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求めているのかを見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作りながら、関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有しながら関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での催し物があるときには参加を促し関係が途切れないように支援している	同じ町の中にある法人のデイサービスへ出かけて、友人へ会ったり、馴染みの店へ買い物や美容室などへ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が出来るようにソファーやこたつ等を準備して支援している		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡などを行い相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向を尊重して行っている	入居前に本人と家族と面談を重ね、希望や要望を聞いている。普段の関わりの中で会話や反応から把握している。思いのままに過ごしてもらうように職員は考慮し、提案しながら場を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報を頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見を聞きながらスタッフ一同把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、スタッフと話し合いながら介護計画を作成している	職員はそれぞれに担当を持ち、誕生日のプレゼントの用意等やケアプラン作成に携わっている。3ヶ月に1回モニタリングをし、他の職員の意見も取り入れながら半年、更新時に定期的に介護計画の見直しをし、計画作成担当者が完成させ、本人、家族に説明し了承を得ている。変化があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で情報を共有しながら見直しなどに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ一同で取り組んでいる		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員から情報を頂きながら暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医と相談しながら受診を行っている	以前からのかかりつけ医の医療を受診できるようにしている。通院介助は基本家族であるが、定期的な受診の場合や家族からの要望があれば、職員が行っている。	定期受診後には必ず家族への報告をされることが期待されます。情報を共有しておくことはいざという時のために必要と思われます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師は不在だがひだけ荘にいる看護師に相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーと関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ取り組んではいないがスタッフ一同勉強会など開いて体制作りを行いたい	設立間もないため、該当する入居者はおられないものの、今後のために、重度化や看取りについての職員への勉強や体制作りをすることになっている。看取りに関する書類はあるものの、確固たる方針等は今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に訓練を行い実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修会などで身につけている、また地域の区長などに協力体制有り	年2回消防署の指導のもと、火災避難訓練、通報訓練等を実施している。推進会議のメンバーである区長に呼び掛け参加してもらっている。夜に火災等の緊急時にはホームの近所在住の法人職員の協力を得ることとしている。また、地区の避難訓練にもホーム職員、入居者と供に参加している。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を1人の人間として尊厳ある言葉掛けや支援を行っている	入居者の人格を尊重し、それぞれに応じた言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけをした際など職員同士が注意し合ったり、管理者から指導をしたりしている。	常に入居者に対しての尊敬の念をもって、対応されることが期待されま
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞いたり、出来るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好きなように過ごすことが出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から身だしなみを行い、落ち着いた生活が出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを聞きながら、また出来る利用者には野菜の皮むきやコップあらいなど手伝ってもらっている	入居者の好みや季節感等を取り入れた献立を担当がたて、買い物、調理をしている。買い物の際に入居者と同行したり、野菜の皮むきや下拵え等を一緒に行っている。食事形態は入居者に合わせている。職員も同じテーブルを囲み同じ食事を食べ、会話しながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った味付けや、量を出して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをしていただいたり介助したりして清潔を保ってもらっている		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで、夜間はポータブルトイレにて介助を行っている	入居者それぞれの排泄のパターンを把握しており、日中はトイレでの排泄支援に努めている。時間や動作を察知してトイレへの誘導をしている。夜間はポータブルを使用される方もいる。時間で起こしてトイレ誘導したり、自分で起きられる方については行き、見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやみかん、水分補給(コーヒー)などをこまめに行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい時間に合わせて介助を行っている	1日おきの昼間の入浴支援をしているが、希望があれば毎日、時間も夜間でも対応することもある。拒否の方は無理強いせず、タイミングを見て再度誘導したり、同性介助を希望される場合にはそのようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼寝をしてもらったり就寝時間を考えて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬について理解して服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に使用する野菜の皮むきや本人の好みの趣味をスタッフと共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ひだけ荘よりワゴンを借りスタッフと共に車で出かけるように支援している	近くに買い物に出かけたり、ホーム周辺を散歩したり、外出の機会が多い。季節毎に花見やドライブ、外食や祭りなどに出かけている。テラスではプランターに野菜や花を植え、育て、収穫することが出来る。外出の際には家族の協力を得ることもある。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に財布を持たせたり、預かっているお金で買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴え時にはスタッフが対応して電話をかけるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにテレビ、ソファーやこたつ等を置き過ぎやすいように配慮している	建物の内部は全て余裕のある広々とした空間がとっており、廊下や居室、食堂、リビングとそれぞれに家庭らしさを感じさせる装飾がしてある。リビングにはくつろげる場所、畳敷きのコーナーにはこたつがあり、皆でおやつ作りをしたり、横になったり使われている。空気清浄器や加湿器など置かれ、健康管理に配慮してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きいソファーや1人用のソファーを置き自由に過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫している	各居室が区別できるようなドアの細工や壁紙が異なっており、自分の居室であるとの目印になっている。以前使用されていた家具や生活用品を持ち込まれている。家族の写真やテレビ、たんず、洋服かけや椅子等がおかれいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を貼り、トイレには看板を作り、床はバリアフリーにしてある		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	毎日申し送り時に理念を読み上げスタッフと共有し、家族にも示したいと思います。	理念の共有をし全員でグループホームならでの認知症の利用者の尊厳を保てるように援助していきたいと思います。また理念が見やすいように大きく作成します。	1ヶ月
2	54	居心地よく過ごせる居室の配置	部屋が広いので本人のなじみのものを居室に持ち込んで使用していただく。	家族に相談し本人のなじみの物を持ってきていただき居室に配置する。	2ヶ月
3	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	看取りケアについて勉強会などを開いてスタッフに覚えてもらい対応したいと思います。また看護師が必要になりますので今後検討していきたいです。本人や家族に説明出来るようにしていきたいです。	1ユニットですが看護師の採用や訪問看護の導入を行い看取りケアを行って行きたい。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。